

岩手県の土地改良



令和7年度「農村景観」写真コンクール
風景部門 「生きる」

No 599 2026.1



CONTENTS

- ・新年のご挨拶
岩手県土地改良事業団体連合会会長 高橋 隆 2
- ・新年にあたって
全国土地改良事業団体連合会会長 二階 俊博 3
- ・新年のご挨拶
都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子 4
- ・令和8年度農業農村整備事業関係予算の
概算が決定 5
- ・国営豊沢川農業水利事業完工式を挙行 5
- ・農業農村整備予算の確保を要請 6~7
- ・岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請 8
- ・農を守り、地方を創る予算の確保に向けて 9
- ・羽澤敦志氏が農政功労者表彰を受賞 10
- ・第9回インフラメンテナンス大賞優秀賞を受賞 10
- ・第47回全国土地改良大会佐賀大会が開催 11
- ・白川周一氏が岩手県農林水産業表彰の
栄誉に輝く 12
- ・令和7年度女性活躍推進会議が開催 13
- ・令和7年度絵画・写真コンクール
入賞作品が決定 14~15
- ・令和7年度「いわて水土里ネット女性の会研修会」
を開催 16
- ・石鳥谷東部・大迫・猿ヶ石北部チームが優勝 17
- ・土地改良区だより第13回水土里ネット西和賀 18
- ・第49回全国土地改良大会岩手大会 19
- ・編集後記



新年のご挨拶

岩手県土地改良事業団体連合会
会長 高橋 隆

新たな年を迎え、希望と決意を新たにしつつ、謹んで御挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、農業農村整備事業の推進に多大なる御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年4月に食料・農業・農村基本計画が策定され、食料安全保障を実現するため、農業の構造転換を集中的に推し進めることとされました。本会は、本県をはじめとする食料供給基地の生産基盤をより一層強化するため、ほ場整備事業等の調査計画業務において、スマート農業の推進に資する計画策定に努めます。さらに、ドローンを活用した3D計画図の作成や、換地・確定測量を通じ受益者を総合的にサポートし、事業の円滑な推進に尽力してまいります。

また、昨年6月に策定された第一次国土強靭化実施中期計画では、令和8年度から令和12年度までの5年間の施策目標や事業規模が示されました。気候変動に伴い頻発化・激甚化する気象災害や大規模地震に対応するため、農村地域の総合的な防災・減災対策の推進が今後も必要です。本会は、岩手県ため池サポートセンターの管理・運営を通じた農業用ため池の防災・減災対策や、農業集落排水施設を始めとする農村インフラの強靭化・高度化を推進するとともに、円滑で速やかな農地・農業用施設の復旧に向けた災害復旧への支援に引き続き取り組んでまいります。

さらに、昨年4月に施行された土地改良法では、土地改良区が市町村等と連携して取り組む「水土里ビジョン」の策定が法定化されました。これにより、農業水利施設の持続的な保全体制の構築と、土地改良区の運営基盤の一層の強化が期待されます。本会は、水土里ビジョンの策定を支援するための土地改良区の経営診断を行っていきます。また、水土里情報システムやドローンによる施設管理の効率化・高度化等を図りながら、引き続き土地改良区の運営基盤強化に取り組んでまいります。

国の令和8年度農業農村整備事業関係予算については、当初予算として4,504億円が閣議決定され、令和7年度補正予算2,439億円と合わせて、昨年度予算を442億円上回る、6,942億円が確保される見込みとなりました。これは、会員の皆様の御支援・御協力と都道府県水土里ネット会長会議顧問である進藤金日子議員の御活躍、農林水産省や岩手県の御尽力の結果であり、改めて深く感謝申し上げます。土地改良事業の計画的な推進には、安定的な予算確保と本県へのさらなる配分が必要不可欠です。本会としては、要請活動を強力に展開し、予算の確保に尽力してまいりますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年は、令和9年に本県で開催予定の全国土地改良大会に向けた準備が本格化します。本県の豊かな自然と食の恵み、農業者の取組等を全国にアピールするとともに、復興支援への感謝を伝える絶好の機会となりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、岩手の農業が一層発展するとともに、会員の皆様がますます御活躍され、実り多い一年となりますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和8年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より、農業農村整備事業の推進に対し、関係各位の格別の御理解と御支援を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、全国各地で記録的な猛暑や集中豪雨など、気候変動の影響が一段と顕著となり、皆様の地域にも大きな影響を及ぼしたのではないかと存じます。

豪雨等により被害を受けられた地域の皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

いま、国際社会は、地球規模で頻発する異常気象や世界的な物価高騰などの諸問題に直面しています。一方、我が国の農業・農村は、農業者の高齢化や減少により、農業の継続やそれを支える農地や農業用水の保全管理が困難になるなどの課題を抱えるなど、農業・農村を取り巻く環境は大きく変化しています。

これらの様々な問題の解決のために、食料・農業・農村基本法や土地改良法の改正が行われ、そして、新たに策定された土地改良長期計画に基づき、令和7年度から11年度までの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとなりました。

競争力のある農業を支える「大区画ほ場整備」や「スマート農業に対応した基盤整備」、また、「中山間地域におけるきめ細かな整備」をスピード感を持って進めていかなければなりません。

本年の干支は「午」ですが、“前進”“飛躍”的な年とされています。まさに地域農業が新たな局面へ踏み出す一年となりますことを願うところであります。

令和8年度農業農村整備事業関係予算 政府原案においては、農業構造改革を集中的に進めるため、4,504億円が計上され、令和7年度補正予算を加えると6,942億円となります。

皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかにお過ごしになられますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問

参議院議員 進藤金日子

あけましておめでとうございます。岩手県土地改良事業団体連合会の会員並びに関係の皆様には、私の政治活動にご理解とご支援を頂戴し、厚く感謝申し上げます。本年も現場主義、地域主義に徹し、農業農村の振興に努めてまいりますので、よろしくご指導をお願い致します。

さて、昨年は、農政、国土強靭化、我が国経済にとって節目の年であったと考えています。土地改良法改正、食料・農業・農村基本計画の策定、農業構造転換集中対策の開始、新たな土地改良長期計画と第一次国土強靭化実施中期計画も策定されました。10月に高市早苗内閣が発足し、日本経済強靭化計画（通称サナエノミクス）が提唱され、我が国の経済転換の期待も広がっています。

3月の土地改良法の改正では、農業生産の基盤の整備に加えて保全に必要な施策を講ずることが明定され、土地改良区が市町村等と連携していわゆる水土里ビジョンを作成し、土地改良施設及び末端施設の保全を行う仕組みを位置付けました。

4月に策定された食料・農業・農村基本計画では、令和7年度からの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとし、「農地・水の確保」、「地域計画に基づく担い手への農地集積・集約化」、「農地の大区画化」等に関し具体策を位置付け、また、「食料システム全体で合理的な費用を考慮した価格形成を推進」することも位置付けました。自民党は、基本計画の実施に関して別枠予算の確保を求め、私はこれらの事業規模の積算を託され、実務的に2.5兆円の積み上げを行いました。

9月には新たな土地改良長期計画が策定され、「基盤整備による生産コストの低減」、「農業水利施設の戦略的な保全管理による持続的な機能確保」、「激甚化・頻発化する災害に対応した防災・減災対策」等に関する5つの目標を設定しました。

6月には第一次国土強靭化実施中期計画が策定され、令和8年度から令和12年度に推進が特に必要となる施策目標を設定、5年間の事業規模を「おおむね20兆円強程度」を目指しました。土地改良では、防災重点農業用ため池の防災・減災対策、農業水利施設等の老朽化・耐震化対策などを進めることとしています。

11月には、総合経済対策が閣議決定され、食料安全保障の確立、防災・減災・国土強靭化等を推進していく上で必要な対策と予算が盛り込まれ、土地改良関係では2,439億円が措置されました。

これらの政策を進めるためには土地改良の推進が重要です。特に農業構造転換集中対策期間の5年間では別枠予算も確保して強力に進めていく必要があります。令和8年度に執行可能な土地改良予算は、令和7年度補正2,439億円と令和8年度概算決定4,504億円の合計6,942億円(昨年比442億円増)となっています。予算のスムーズな執行に対する貴連合会による技術支援とご協力をお願いいたします。私は本年も土地改良の推進のため努力してまいりますので、皆様方からの益々のご指導、ご支援をお願いし、新年のご挨拶と致します。

令和8年度農業農村整備事業関係予算の概算が決定 －当初予算は、対前年度比100.9%－

農業農村整備事業関係予算の令和8年度当初予算は4,504億円となった。

また、防災・減災、国土強靭化対策、TPP等関連対策、食料安全保障対策及び構造転換集中対策として、令和7年度補正予算において2,439億円を計上し、これらの総額は6,942億円となった。

(単位：億円)

	令和7年度 当初予算	令和8年度 当初予算 A	令和7年度 補正予算 B	合計 A+B
農業農村整備事業(公共)	3,331	3,365 <101.0%>	2,165	5,530
農業農村整備関連事業(非公共) 農地耕作条件改善事業、大区画化等加速化支援事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 農業生産基盤情報通信環境整備事業 畑作等促進整備事業、農山漁村振興交付金	548	554 <101.2%>	274	828
農山漁村地域整備交付金(公共) (農業農村整備分)	584	584 <100.0%>	—	584
計	4,464	4,504 <100.9%>	2,439	6,942

注：計数は四捨五入しているので、端数において合計と一致しないものがある。

国営豊沢川農業水利事業完工式を挙行 －地域農業の持続的な発展に寄与－

東北農政局は、令和7年11月19日、国営豊沢川農業水利事業完工式を花巻市「ホテル千秋閣」で開催し、国・県をはじめ関係機関・団体等から約120名が出席した。本事業は農業用水の安定供給と維持管理費の軽減や、農業生産性の維持及び農業経営の安定を目的に進めてきたものであり、築造後50年以上が経過した豊沢ダムを改修するとともに、小水力発電施設を新設した。

式典では、鈴木憲和農林水産大臣の挨拶を石川英一農林水産省農山村振興局整備部長が代読。「農業用水が安定的に供給され、地域の特色を生かした農業が持続的に営まれることを祈念する。土地改良区による施設の維持管理やほ場整備事業の推進など、現場の皆様の取り組みを支援

していく。」と述べた。

豊沢川土地改良区久保田泰輝理事長は「今後も豊沢川の美しい農村環境を維持し末長く豊かな生活に寄与していくとともに、地域農業が持続的に発展するよう今後も努力する。」と謝辞を述べ、事業の推進に尽力した関係者へ感謝の意を表した。

式典後には祝賀会が開かれ、事業の完成を祝うとともに、今後の地域農業の持続的な発展に向けて思いを新たにした。

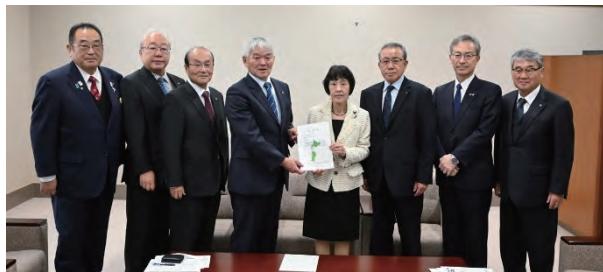


【謝辞を述べる久保田理事長】

農業農村整備予算の確保を要請 －東北・北海道土地連絡協議会が要請活動を展開－

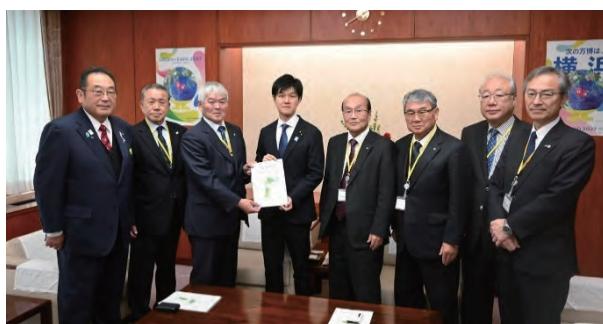
東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（会長：高橋隆 岩手県土地改良事業団体連合会会长）は、令和7年11月26日、農業農村整備関係予算の確保と東日本大震災からの再生・復興に関する要請を行った。

財務省では高橋はるみ 財務大臣政務官、農林水産省では鈴木憲和 農林水産大臣、復興庁では山野謙 復興庁事務次官に面会し要請を行った。



【高橋財務大臣政務官へ要請書を手交】

高橋財務大臣政務官からは、「生産性の高い農業の実現に向けて、基盤整備の重要性を深く認識。本日の要請を踏まえて、予算編成にしっかりと取り組んでいく」との回答があった。



【鈴木農林水産大臣へ要請書を手交】

鈴木農林水産大臣からは、「中山間地域を含めて、農作業の省力化・効率化に資する基盤整備が今後の目指すべき姿。資材価格の高騰や渇水・豪雨等の影響がある中で、安定的で再生産可能な農業の実現に向けて、しっかりと取り組んでいく」との回答があった。



【山野事務次官へ要請書を手交】

山野復興庁事務次官からは、「東日本大震災を風化させないよう、未来の世代にしっかりと伝えながら、粘り強く復興の取組を続けていくことが重要と認識。復興の司令塔として、引き続き、緊張感を持って取り組んでいく」との回答があった。

また、自由民主党本部において、鈴木俊一幹事長に面会し要請を行った。



【鈴木幹事長へ要請書を手交】

鈴木幹事長からは、「土地改良事業は、投資した予算に対する効果がとても分かりやすく、重要な事業であると認識。担い手不足を補うのはスマート農業であり、その実装には基盤整備が必要不可欠。また、防災・減災、国土強靭化に向け、ため池等の整備も進めていく必要がある。土地改良事業の推進に向けて、引き続き、みなさんと一緒に頑張っていきるので、よろしくお願いしたい」との回答があった。

要請項目**《農業農村整備関係》****1 新たな土地改良長期計画の実現に向けた農業農村整備関連予算の確保について**

食料安全保障の確保や多面的機能の発揮を実現するため、農地の集積・集約化やスマート農業の推進に向けた基盤整備、農業水利施設の戦略的な保全管理等の着実な推進が図られるよう、令和8年度予算について、令和7年度補正予算や農業構造転換集中対策に係る経費も含め安定的かつ十分に確保すること。

2 農業・農村地域の国土強靭化に向けた支援について

農村地域の国土強靭化のため、老朽化したため池を含む農業水利施設の更新・長寿命化対策及び豪雨・耐震化対策をより一層推進するとともに、第1次国土強靭化実施中期計画の実現に関する予算を十分に確保すること。

3 近年の大規模災害からの復旧・復興に係る支援について

頻発する地震や豪雨等による大規模災害からの復旧・復興や、再度災害防止の取組を早急に進めること。

4 土地改良区の運営体制等の強化に向けた支援について

- (1) 自然的、社会的、経済的な情勢変化を踏まえ、高い公共性・公益性を有する土地改良施設の維持管理に対する支援を充実させること。
- (2) ICT、AI等を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進するとともに、中小規模の土地改良区を対象とした合併に対する支援を推進すること。
- (3) 土地改良区の運営に参画する人材の多様化を図るため、男女共同参画に向けた取組への支援を充実すること。
- (4) 水土里ビジョンの策定・実践に当たり、基盤整備や施設の更新等について継続的かつ安定的な財政支援を行うこと。

《東日本大震災関係》**1 農業・農村再生に必要な予算の確保について**

東日本大震災により被災した地域の農業・農村再生に不可欠な復興事業について、第3期復興・創生期間における事業の実施に必要となる予算を確保すること。

岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請

—「収益力の高い食料・木材供給基地」や 「一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村」の実現に向けて—

本会は令和7年12月25日、高橋隆会長、久保田泰輝、千田公喜両副会長、千葉匡専務理事が、岩手県に対し「農業農村整備の着実な推進に関する要請」として、令和8年度当初予算の確保等について要請を行った。



【佐藤農林水産部長と要請者】

要請に対し、佐藤農林水産部長から以下のとおり回答があった。

農業農村整備事業は、地域から多くの要望があり、ほ場整備を中心に県予算を増額している。令和7年度予算は218億円を措置。また、昨日の県議会（12月臨時会）において、国の農業構造転換集中対策と連動する形で、134億円の補正予算を措置。この他、物価高騰対策として、農業水利施設の電気代支援として22百万円を予算措置したところ。

令和8年度の当初予算についても、本日の要請を踏まえて検討を進めていく。

また、今泉農村整備担当技監から以下のとおり回答があった。

ほ場整備については、予算の重点配分や整備コストの縮減を図りながら、地域のニーズに応じた整備が早く進むように取り組んでいく。また、大区画化等加速化支援事業の円滑な実施に向けて、協議会の設置・運営等、土地連と一緒に取り組んでいく。

水土里ビジョンについては、今後も、地域の意見をしっかりと反映しながら、策定が円滑に進むよう、土地改良区を支援していく。

多面的機能支払交付金については、今後も国に予算確保を働きかけながら、地域の意向に沿って取り組んでいく。



【要請状況】

要請項目

- 1 農業農村整備事業関係予算について、令和8年度当初予算の本県への十分な配分を国に強く要請するとともに、県予算を十分に確保すること。
- 2 ほ場整備の新規地区の計画的な採択に向け、調査計画を引き続き推進するとともに、継続地区が早期に完了するよう事業進捗を一層図ること。
また、大区画化等加速化支援事業の実施に向け、大区画化等推進協議会が円滑に設置・運営されるよう支援すること。
- 3 土地改良区の運営基盤強化や地域の農業水利施設の保全に向け、農業水利施設の補修・更新やデジタル技術による維持管理の省力化・高度化、水土里ビジョンの策定が計画的に推進されるよう支援すること。
- 4 多面的機能支払交付金による地域共同活動は、流域治水等、県土の保全にも資するものであり、地域の要望に対応できる十分な予算を確保すること。

農を守り、地方を創る予算の確保に向けて －『農業農村整備の集い』が開催－

令和7年11月26日、全国土地改良事業団体連合会は、令和8年度当初予算の確保と各種施策の着実な実施に向けて『農業農村整備の集い』を開催し、全国から1,203名が集結した。

始めに、主催者挨拶として二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長が、「食料安全保障を確保するためには、農業の構造転換を集中的に進めていくことが重要である。土地改良予算に加え、農地の大区画化や水利施設の整備、中山間地域対策を進めるための別枠予算を確保するため、一丸となって取り組んでいく。」と述べた。



【挨拶する二階全土連会長】

来賓祝辞では、鈴木憲和農林水産大臣が「農業農村整備関連予算は、今年度6,500億円を確保したが、農業の構造転換や国土強靭化をより一層進めるため、令和8年度も補正予算の確保や、別枠予算を含めた更なる増額へ向けて全力で取り組んでいく。」と述べた。



【祝辞を述べる鈴木農林水産大臣】

また、進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問が、「基盤が整備されているか否かというのは、農業農村振興を図るうえで重要な要素である。そのためにも予算をしっかりと確保して、若手が農業を継いで農村を守っていけるよう“闘う土地改良”を皆さんと一緒に頑張っていきましょう。」と述べた。

次に、『食料安全保障の確保に欠かせな



【祝辞を述べる進藤会長会議顧問】

い土地改良事業をスピード感を持って推進できるよう、当初及び補正予算と別枠を含めた必要な予算を確保すること』など全7項目の要請案文が全会一致で採択された。

最後に、水土里ネット奈良の発声で参加者全員によるガンバロウ三唱を行い、幕を閉じた。



【ガンバロウ三唱をする代表者】

羽澤敦志氏が農政功労者表彰を受賞 －令和7年度農業委員会大会において－

令和7年11月11日(火)、盛岡市都南文化会館（キャラホール）において、一般社団法人岩手県農業会議（杉原永康会長）主催の『令和7年度岩手県農業委員会大会』が開催され、羽澤敦志安代土地改良区理事長が農政功労者表彰を受賞した。

この表彰は、永年にわたり農林業関係機関・団体の役員等として組織の育成及び農林業の発展に多大な貢献をされた方を表彰するもので、羽澤氏は、農地資源向上や地域営農の発展への尽力等の功績

が認められ、今回の受賞となった。

会場には、県内各地から農業委員や関係者約650名が参集し、受賞者に対して盛大な拍手が送られた。



【賞状を受取る羽澤理事長】

第9回インフラメンテナンス大賞優秀賞を受賞

令和8年1月21日(水)、中央合同庁舎第3号館（国土交通省）において、「第9回インフラメンテナンス大賞」表彰式が開催され、本会が取り組む「【次世代のために】IoT×地理空間情報で農業水利施設の維持管理効率化・高度化」が、『農業農村分野・メンテナンスを支える活動部門』において、優秀賞を受賞した。

本取組は、県内で導入が進められている IoT 水位センサー機器と地理空間情報（水土里情報システム）の連携を実現したものであり、これにより維持管理の更なる効率化・高度化を図り、次世代に向けた持続可能な維持管理に貢献するものである。

この連携により、水路の水位を直近のデータと比較することが可能となり、点検対象施設の選定が容易になるなど、水管管理の高度化が図られることや、オープンデータとの連携により、水害などの現地リスクを 3D で可視化でき、更なる効率的な施設点検が可能となる。



【表彰式の様子】

「インフラメンテナンス大賞とは？」
インフラが直面する老朽化やその対策に必要となる担い手不足の問題に対応して、インフラメンテナンスの現場における工夫やメンテナンスを支える活動、インフラメンテナンスの効果的・効率的な実施を実現した研究・技術開発の優れた成果を収めた取組の関係者を顕彰することで、日本国内のインフラの機能維持を目指すもの。

第47回全国土地改良大会佐賀大会が開催

—高橋昭貴氏が農林水産省農村振興局長表彰を、
佐藤育郎氏が全土連会長表彰を受賞—

令和7年10月15日、第47回全国土地改良大会佐賀大会が『水を利用して土を活かす さがで語ろう郷里(さと)の未来』をテーマに、佐賀県佐賀市で開催され、全国の水土里ネット関係者約4,200人が参加した。開会に先立ち行われたオープニングセレモニーでは、佐賀県紹介映像の上映と篠笛奏者 佐藤和哉氏の圧巻の演奏により、華やかに大会の幕が開かれた。



【式典会場で集合写真】

開催にあたり、主催者の全国土地改良事業団体連合会 二階俊博会長が、「この佐賀の地では広大な農地を築き上げ、現代では米と麦の二毛作により全国第1位の耕利用率を誇る我が国有数の穀倉地帯となっている。本日ここに集う皆様とともに土地改良が築き上げてきた、水・土・里の重要性を再確認をするとともに、しっかりと次世代へと引き続いていくことを誓い合いたい。」と挨拶した。



【挨拶する二階会長】

また、来賓の笹川博義農林水産副大臣(当時)が「佐賀県は全国有数のほ場整備率、担い手への集積率で効率的な土地利用型農業を展開し、地域の特性に応じた多彩な農畜産業を行っている。土地改良がこうした食料生産や豊かな国土づくりに全国各地で貢献してきたことを改めて申し上げたい。また本年3月には土地改良法を改正し、9月には新たな土地改良長期計画を策定した。これらの計画に基づき、農地の大区画化や農業水利施設の整備、保全等に集中的かつ計画的に進めいくため、必要な予算確保に向け全力で取り組んでいく。」と祝辞を述べた。

式典では、長年にわたり土地改良事業に尽力された方々の功績を讃える表彰式が行われ、本県からは高橋昭貴氏(西和賀土地改良区理事長)が農林水産省農村振興局長表彰を、佐藤育郎氏(前一関東部土地改良区理事長)が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞した。

式典の最後には、次期開催県である奈良県へ大会旗が引継がれた。



【式典会場全体の様子】

令和9年度には第49回全国土地改良大会岩手大会を開催いたします。岩手大会に係る情報につきましては随時お知らせしてまいりますので、県内関係者皆様の御支援、御協力をよろしくお願ひいたします。

白川 周一氏が岩手県農林水産業表彰の栄誉に輝く －令和7年度いわて農林水産躍進大会－

12月23日、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）において、「令和7年度いわて農林水産躍進大会」が開催された。大会では、「岩手県農林水産業表彰」、「いわて農林水産振興協議会会長表彰」、「いわて中山間賞」、「岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞」及び「岩手県アドプト活動モデル賞」の授与が行われた。

岩手県農林水産業表彰

永年にわたり農林水産業に関する団体の運営や協同組織の育成又は農林水産業の技術の向上発展に尽力され顕著な功績があった方を表彰するもので、白川 周一 陸前高田土地改良区理事長ほか7名が受賞した。



[白川 周一 陸前高田土地改良区理事長]

岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞

「農地・水環境保全向上活動」とは、地域共同の力で農地や農業用水等の地域資源と農村環境を保全管理する取組で、本県では平成19年度から活動が展開されており、県内の模範となる優れた取組を行っている3団体が受賞した。

受賞団体
寺田水環境保全協議会（八幡平市）
梁川第二区集落多面的活動組織（奥州市）
両沢地区農地・水・環境保全会（西和賀町）



〔 前列左から
寺田水環境保全協議会
梁川第二区集落多面的活動組織
両沢地区農地・水・環境保全会 〕

岩手県アドプト活動モデル賞

「アドプト活動」とは、農業水利施設の適切な管理に向け、施設管理者と地域・企業などが協定を締結し、協働で施設等の保全活動を行う取組で、本県では平成15年度から活動が展開されており、県内の模範となる優れた取組を行っている2団体が受賞した。

受賞団体	
実施団体	協定団体
東北エンジニアリング株式会社 (盛岡市)	岩手山麓土地改良区



〔 前列左から
井上良一 岩手山麓土地改良区理事長
東北エンジニアリング株式会社 〕



※アドプト活動モデル賞の賞状は、実施団体と協定団体が賞状の上部で握手している形が特徴です。

令和7年度 女性活躍推進会議が開催

10月22日、23日の2日間、東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（会長：高橋 隆）は岩手県盛岡市において、「令和7年度 女性活躍推進会議」を開催した。本会議は、女性理事及び女性職員が農業・農村についての意識をより一層深めるとともに、相互ネットワークの構築と充実を図ることを目的としており、北海道・東北管内の水土里ネット関係者約90名が出席した。

開会にあたり、高橋会長は「農村においても、女性が担い手として活躍する時代になっている。本日の講演や情報交換を通じ研修を深め、今後の農業の発展につなげてほしい」と挨拶した。



【参加者の集合写真】

初日の会議では、北日本銀行の早川智子執行役員による『女性がリーダーとなるということ』と題した基調講演や、岩手県内の女性理事3名による『理事という立場から見えた景色～女性の視点から～』と題した講義が行われた。



【会場の様子】

その後、全国土地改良事業団体連合会の室本隆司専務理事による『土地改良区の理事に必要な主な項目』、『土地改良概論』、『土地改良区をとりまく情勢』、『男女共同参画の意義』の4つの講義が行われ、最後に『女性活躍の視点から誰もが働きやすい職場を考える』をテーマに、各県の女性理事による意見交換が行われた。



【女性理事による意見交換の様子】

2日目の現地視察では、岩手県内のほ場整備地区（平良木地区）を見学し、スマート農業等に対応する整備事例について、猿ヶ石北部土地改良区の小原雅道理事長から説明を受けた。

その後、株式会社エーデルワインのワインシャトー大迫でのワイン造りの工場見学や、成島和紙工芸館での成島和紙の紙漉き体験を通じ、地域資源を生かした取り組みへの理解を深めた。

本会議は、女性の視点を生かした土地改良区運営の重要性を再認識するとともに、今後の女性活躍推進に向けた有意義な機会となった。



【平良木地区での現地視察の様子】

令和7年度絵画・写真コンクール入賞作品が決定

令和7年12月12日に本会主催による令和7年度「小中学生による『美しく豊かな農村』絵画コンクール」及び「『農村景観』写真コンクール」の選考会を開催しました。県内各地から農村の美しい景観や、最新技術を活用したスマート農業の様子などを表現した作品が多数寄せられ、絵画179点、写真69点の応募がありました。



【本会 HP QRコード】

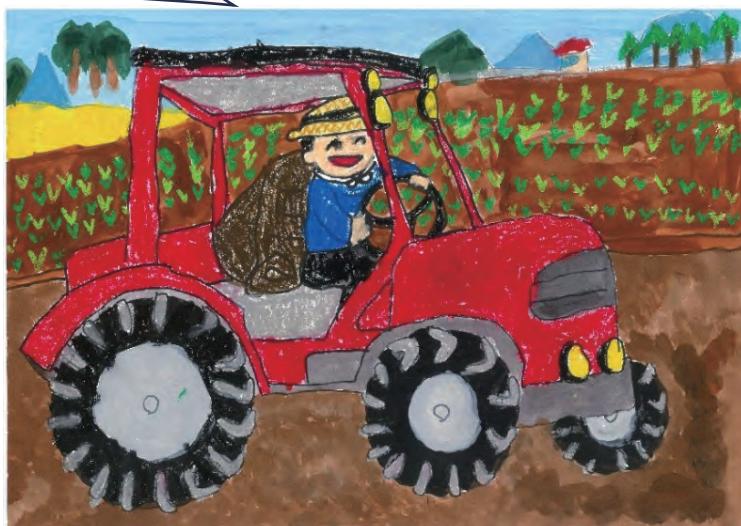
審査委員による厳正な審査の結果、絵画コンクールでは金賞4点、銀賞9点、銅賞11点、佳作9点が選出されました。写真コンクールでは、最優秀賞2点、優秀賞4点、佳作4点が選出され、両コンクール合わせて43点の作品が入賞しました。

各部門の入賞作品は、本会ホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

さらに、過去の応募作品も同ホームページから無料でダウンロードできます。名刺やポスターなど農業・農村の魅力発信に幅広くご活用ください。

【 絵画コンクール 金賞受賞作品 】

小学生低学年の部

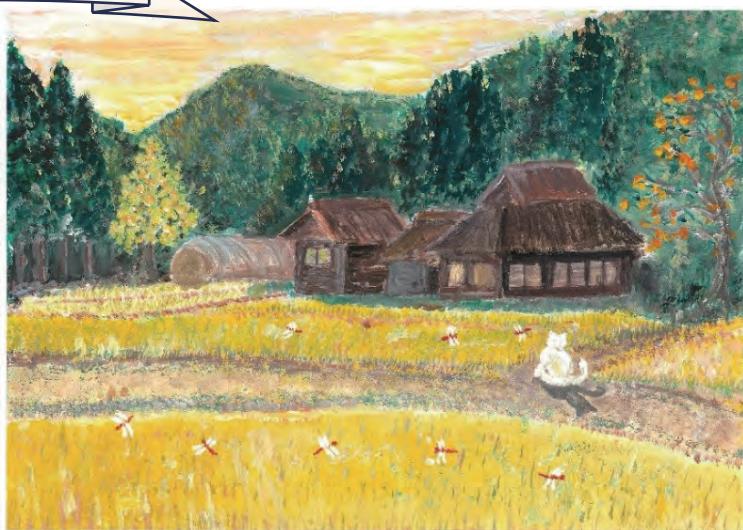


「田んぼのじゅんび」

小学生中学年の部

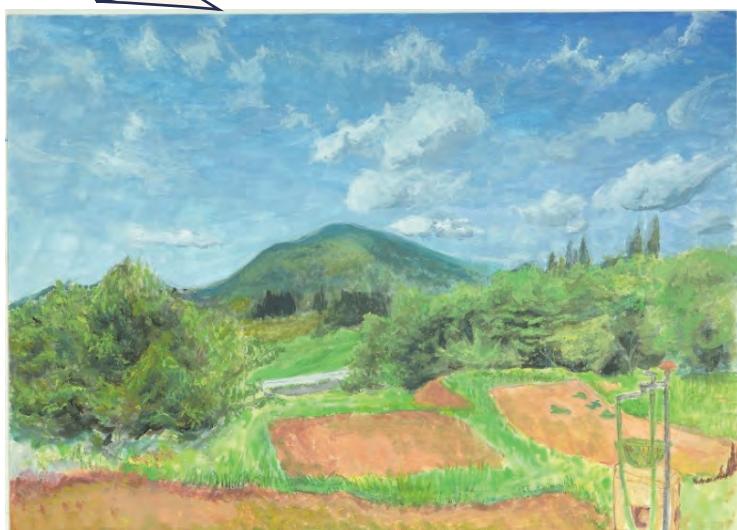


小学生高学年の部



「おばあちゃんの家と猫」

中学生の部



「青を聴く故郷」

【写真コンクール 最優秀賞受賞作品】

風景部門



「収穫を祝う」

人物部門



「わたしも、できる」

令和7年度「いわて水土里ネット女性の会研修会」を開催

11月18日(火) いわて水土里ネット女性の会(会長 津嶋明香 鹿妻穴堰土地改良区総務課主査)は、葛巻町内において、令和7年度「いわて水土里ネット女性の会研修会」を開催した。

本研修会は、県内の農業や環境に関する先進的な取組事例等を学び、知識や視野を広げるとともに、会員同士の交流を図ることを目的として実施され、会員36名が参加した。



【津嶋会長の挨拶】

開会にあたり、津嶋会長は「本日は、新エネルギーに関する勉強会とランチミーティングを行う。葛巻町は環境保全とクリーンエネルギーに積極的に取り組んでいる地域であり、その先進的な事例の中に、日々の業務に活かすヒントがあるかもしれない。また、ランチミーティングを通じて会員同士の交流を深め、ネットワークを広げてほしい。」と挨拶した。



【グループミーティングの様子】

研修会では、くずまき高原牧場にて酪農に触れる体験として、新鮮な牛乳を使用したフレッシュバター作りを行った。その後、松茸や牛肉など地元食材をふんだんに使用したランチを囲み、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めた。



【新エネルギーについての説明】

午後には、「日々のモヤモヤを話して、未来の職場を描く」をテーマにグループミーティングを行い、業務上の悩みや個々の課題を共有しながら、前向きな解決策やアイディアについて意見交換をおこなった。

続いて、葛巻町役場職員から、町一体となって進めるクリーンエネルギーの取り組みについて説明を受け、新エネルギーを活用したまちづくりへの理解を深めた。

また、牧場内の「木質バイオマス発電施設」、「蓄ふんバイオガス発電施設」を見学し、持続可能な地域づくりについて学ぶなど、有意義な研修会となった。



【新エネルギー施設での集合写真】

石鳥谷東部・大迫・猿ヶ石北部チームが優勝! -令和7年度水土里ネット親睦ソフトボール大会開催-

本会は、令和7年10月2日、令和7年度水土里ネット親睦ソフトボール大会を石鳥谷ふれあい運動公園で開催。13チームが熱戦を繰り広げた。

開会式で高橋隆会長は、「多くの皆さんにご参加いただき、心から感謝する。この大会で親睦を深めるとともに、各団体の意地をかけて楽しく、明るく、元気に大会を盛り上げていただきたい」と挨拶。昨年優勝チーム、水土里ネット山王海の鷹嘴零志選手が選手宣誓を行い、高橋会長の始球式で試合が開始された。

全12試合が行われ、ホームランが数多く飛び交い、好プレーも続出。選手の一投一打に大きな拍手と声援が送られた。

決勝は、石鳥谷東部・大迫・猿ヶ石北部チームと豊沢川土地改良区の対戦。互いに譲らぬ攻防の末、10対10の同点となり、勝敗は代表3名によるじゃんけん対決へ。手に汗握る勝負の結果、2対1で石鳥谷東部・大迫・猿ヶ石北部チームが優勝カップを勝ち取った。



【試合の様子】



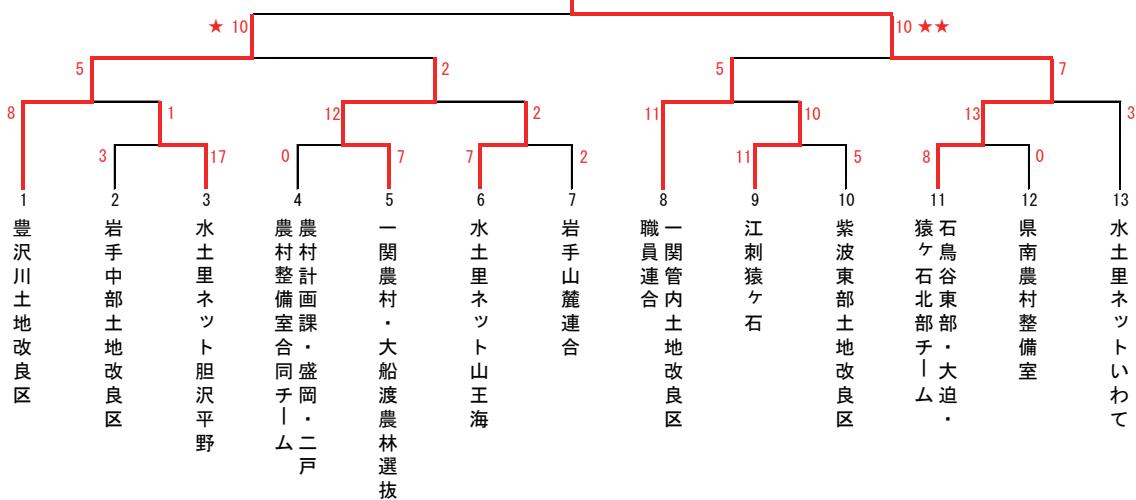
【決勝じゃんけん対決の様子】

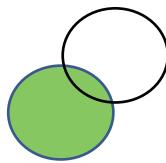


【優勝した石鳥谷東部・大迫・猿ヶ石北部チーム】

令和7年度 水土里ネット親睦ソフトボール大会 試合結果

石鳥谷東部・大迫・猿ヶ石北部チーム





土地改良区だより

第13回 水土里ネット西和賀 (西和賀土地改良区)

県内位置図



【高橋 昭貴理事長と職員】

本土地改良区の受益地は、岩手県の最西端に位置し、秋田県境との山間部で南北に細長く開けた、沢内盆地といわれる平坦地帯にあり、民謡“沢内甚句”的歌詞に「沢内三千石お米の出どこ」と唄われています。

当改良区は、昭和46年～昭和50年の第3次岩手県土地改良区統合整備基本計画に基づき、旧沢内村の和賀西部土地改良区、和賀東部土地改良区、和賀北部土地改良区の3土地改良区が新設合併により昭和50年4月に設立されました。

管内では、昭和27～42年度に県営かん排事業により造成された和賀西部頭首工及び和賀西部幹線用水路が最大の施設であり、和賀川右岸の約500haの水田に取水をしております。その他、長瀬野揚水機場、弁天頭首工等の施設により、和賀川左岸の約220haへの取水を行っています。

昭和30～40年代に整備された水田は、平成より県営ほ場整備事業を導入しながら大区画化を図り、農業収益の向上、農作業の効率化・省力化へ向けて、現在も川舟地区(105ha)のほ場整備を進めているところです。

また、令和7年10月には岩手中部土地改良区と連携して県内で最初となる「水土里ビジョン策定」へ向けた地域協議会を設立しました。今後、策定へ向け共に取り組んで参ります。



【ほ場整備現場写真(川舟地区)】



【和賀西部頭首工】

水土里ネット西和賀(西和賀土地改良区)

【理事長】 高橋 昭貴

【所在地】 〒029-5614 岩手県和賀郡西和賀町沢内字太田1-9-9

【連絡先】 TEL : 0197-85-3331 FAX : 0197-85-3327

【受益面積】 897ha 【組合員】 730名 【理事】 8名 【監事】 3名 【職員】 3名

第49回全国土地改良大会岩手大会 —大会テーマ、大会ロゴマークが決定！—

令和9年度に開催を予定する第49回全国土地改良大会岩手大会の大会テーマと大会ロゴマークが決定しました。

大会テーマ71作品（県内一般公募）、大会ロゴマーク23作品（MCL 盛岡情報ビジネス＆デザイン専門学校1年生制作）の中から、下記作品がそれぞれ決定しました。

今後は、大会開催に向けてさまざまな場面で活用し、大会を盛り上げてまいります。

■大会テーマ

「**水がめぐり 土が息づく いわての里 つむごう感謝と農のこころ**」

《趣旨》

岩手の豊かな自然と農業が生み出す「水」と「土」を大切に育んできた岩手の郷土。東日本大震災からの復興に支えてくださった全国の方々への感謝の気持ちを込め、岩手の農業者たちの努力と未来へ向けた希望を伝え、次世代にこの地の恵みと心をつなげていくことを目指します。

■大会ロゴマーク



《コンセプト》

山・扇状地・川・畑の四つをモチーフに、岩手の自然の豊かさと人々の暮らしを表現しました。山は故郷の象徴、扇状地は土地改良により飢えから救済された歴史、川は循環と共生、畑は実りの象徴です。これらを組み合わせ、岩の姿として形にし、これからもふるさとの良さを守り続けたいという願いを込めました。

編集後記

明けましておめでとうございます。厳しい寒さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、2026年は「^{ひのえうま}内午の年」です。「内」は、明るさや成長、発展のエネルギーを象徴し、「午」はスピード感や行動力、前進といった意味があるといわれています。今年はこの勢いを味方に、私たちも果敢に挑戦を重ね、さらなる成長を目指してまいります。

「うまどし」にちなみ、「う」るおいある水とともにある暮らしを願い、「ま」いにちを大切に、「ど」んなときも笑顔で、「し」あわせに満ちた一年となりますようにお祈り申し上げます。

本年も水土里ネットいわてをどうぞよろしくお願ひいたします。

(編集幹事)



発行所 岩手県土地改良事業団体連合会

〒020-0866 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL 019-631-3200

FAX 019-631-3260

https://www.iwatoch.com

編集発行人 千葉 匠